

成果指標				
成果指標	低金利時代を反映し、政府資金の利率については低利で確定しているが、市中銀行からの借入れについても入札制度を導入し、借入れ利率3.0%以下とする。			
指標設定の考え方	厳しい財政状況における将来負担の軽減を図り、後年度の世代に実質的な負担を残さないためにも、なるべく有利な起債を選択する。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	3	3	3	0
実績	0.865-0.143	0.9-0.1	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>厳しい財政状況における将来負担の軽減を図るため、今後も縁故債については入札方式により、より低金利での起債に努める。第1次総合計画における行財政改革の推進に関し、起債管理業務は極めて重要な役割を担っていると認識しているため、確実な償還と併せて、新規の借入の際には内容を充分精査するよう努めている。現時点では合併特例債以外の償還が進んでいる一方、本庁舎建設等による借入も増加しており、今後その償還が始まることを考慮し引き続き財政分析と情報収集に努めた上で適正な起債管理を行う。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>将来にわたり持続可能な財政運営が担保されるよう、起債に関する基本的な考え方や方針を定め、本市の財政規模や財政状況に見合う市債残高の目標額を定めて計画的に管理していく。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	今後一般財源が年々減少する中、公共建設事業を実施するためには、過疎債などの地方債を財源とせざるを得ないが、正確な起債管理を行うことにより、事業実施の決定において適切な判断ができるようにしなければならない。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	下記の点を見直しの上、継続する。
意見、課題	二次評価の内容を踏まえ見直すこと。